

「市民会議作業部会（ワーキング）」開催報告

矢作川流域圏懇談会「第3回市民企画会議（WG）」が開催される

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成23年8月27日(土)
16:10～17:30

○開催場所

【集合】奥矢作勤労青年レクリエーションセンター

○参加者：32名（事務局含む）

別添：「出席者名簿参照」

(2)内容

【会議議事】

第3回市民企画会議議事

- ①第5回勉強会の内容確認と参加者の募集
- ②山地域の課題の取り組み状況の報告
- ③川地域の今後の活動報告
- ④海地域の有志による打合せ日程調整報告
- ⑤今後の企画の方向性



会議風景



参加者からのイベント案内

2. 主な会議内容

「第3回市民企画会議(WG)」では、主に以下の内容が協議、報告された。

- 第5回勉強会として川の勉強会についての内容について確認し、今後も継続して参加者を募集していくことを周知した。
- 山地域の課題の取り組み状況の報告として、平成23年8月26日に有志の意見交換会についての開催報告を行った。
- 川地域の今後の活動報告として、まずやってみようという方針で進めていく。
- 海地域のコアメンバーと事務局を交えて打合せを行い、今後の方向性について検討を行う。
- 今後の企画の方向性として、地域部会の開催の必要性について参加者間で共有した。

3. 議事概要

(1) 開 会

(2) 議題

・ ご意見、提案 ▶ 回答

① 第5回勉強会の内容確認と参加者の募集

【碓さくら氏から説明】

- ・ 川の勉強会として位置づけをお願いしたい。(了解)
- ・ 自家用車で来る方は別紙資料を参照し、福祉センターに停めること、
- ・ 電車の方は新豊田駅まで送迎を行う。
- ・ 懇親会にはぜひ出席していただきたい。
- ・ 古峯水辺公園はアユの塩焼きの提供を考えている。

【意見】

- ・ 参加申し込み表の宿泊希望についての文言は、事務局で宿を斡旋するような誤解を招くので修正をする。宿泊地については、情報提供のみを行う点を明示する。(洲崎)
- ・ 24日の5番の「埋没林」とはいつごろ起きた氾濫なのか？(井上)
 - ▶ 縄文時代晩期のこと、ドングリの種が確認されている。(碓)
 - ▶ 近傍に鎌倉時代の井戸があるが、当日は回れないので資料等で補足を行う。(事務局)
- ・ 修正依頼事項については随時、事務局へ連絡をいれていただき、対応については別途相談を行う。(事務局)
- ・ 懇親会の場所は決まっているのか？(篠原)
 - ▶ 人数が決定したあと、ご連絡をする。(事務局)

② 山地域の課題の取り組み状況の報告

【洲崎燈子氏から報告】

- ・ 当初事務局より提案のあった現状の課題は、学識者はじめ市民の側との認識にミスマッチを起こしていた。
- ・ 蔵治先生より、たたき台としての課題が提出され、7月7日に蔵治先生からのレクチャーが行われた。
- ・ 8月26日に打合せを行った結果、歩み寄りが出来たという認識をしている。
- ・ 表現や細かい部分は今後詰めていく必要はあるが、出発点には近づいたと認識した。

【意見】

- ・ 「山村の活性化が欠かせない」との認識を事務局がもったこと、これが大きい、今後、ブラッシュアップをしていく。(黒田氏)

③ 川地域の今後の活動報告

【碓さくら氏から報告】

- ・ 海の勉強会のあと川地域の会議を開催したが、川の中、川の外、水質などやりだしたら、きりがなほど課題があるとの共通認識をもった。
- ・ その後、8月12日に有志の会を開催し、川地域の理解と情報の共有化とその進め方について検討を行うも、その対象が多岐にわたっており検討すべき事項が多いことから、鷲見先生より上下流問題と地先の課題とに分けて、特に地先の課題では河川空間の環境や利用について考えてはどうか、との提案があった。
- ・ 川地域については、参加者多数につき、意見が多様で、まとまらないことから、まずやってみようという認識で進めていきたい。

【意見】

- ・ 要望としては、「国・県・市町村と管理者が異なる中で、活動団体のフィールドもそれぞれであるため、県・市町村の側からも参加を含めて情報提供等をお願いしたい。」ということ。(内田先生)
- ・ とにかく動きたいということと、多様な団体がいる中で扱う課題を集約し、メンバーで合意形成を行うことが重要(鷲見先生)
- ・ 初歩の段階でお互いに知り合うことが重要。山・川・海の相互の立場で求めることについて整理を行うことが必要と認識している。(光岡氏)
- ・ 市民をめぐって川の間人同士で対立することもある。川の問題が多岐にわたっている点は、海・山の側からも理解している。(黒田)
- ・ ツアーを通じて意見交換を行うことで、課題についても考えていければよい。(裕)

④ 海地域の有志による打合せ日程調整報告

【井上正一郎氏から報告】

- ・ 9月2日18時から豊橋技科大サテライトで高橋、青木、井上の3名とオブザーバーの事務局を交えた打合せを行う。
- ・ 鈴木氏、宮川氏には連絡済み。
- ・ 本日の山の勉強会をうけ、山村を助けなければならないという主張は理解した。しかし、山村こそが下流を守っているという見方もあるため、海の側からも上流のことを考えていきたい。

【意見】

- ・ 山よりは海のほうが勉強会の参加者も多い。河川の流路も含め河川誌を紐解いて考える必要があるかもしれない。(黒田)
- ・ 模索中の所もあるので、いろいろ意見交換をしていきたい。(高橋)

⑤ 今後の企画の方向性

【意見】

- ・ 山から海をつなげる共通のキーワードとして、「アサリ」や「わき水」などの設定が必要ではないか。(井上)
- ・ 山で雨が降ってちゃんと水が染みこんでそれが川を通じて河口に至る、そういう感覚が重要である。(井上)

- ・ 上流域からの濁りの問題は、海健康という面では問題もある。(井上)
- ・ 学識経験者の方からも適宜意見を頂きたい。(井上)
- ・ 勉強会に新しい観点を持ち込んでみることも考えられる。(井上)
- ・ 海の側からは、伏流水が海に出るという問題についても興味がある。(井上)
- ・ 山川海で勉強会が一巡するので、この先の市民会議、地域部会を行っていく必要がある。(蔵治)
- ・ 各地域の有志メンバー以外も情報等共有していく必要がある。そのために各地域のメンバーを集めて年内に開催することが必要と考えている。(裕)
 - ▶ 年内を目途に市民会議を設定してはどうか。1月末に地域部会を開催してはどうか。地域部会の各座長をお聞きし、関係者で調整していくことが必要。(事務局)
- ・ 山川海が集まってやらなければならないと考えると、準備が必要となってくる。(蔵治)
- ・ 次回有志の会は9月28日(水)18時から行い、場所については別途ご連絡をする。(事務局)

以上

第3回市民企画会議(WG)平成23年8月27日、 出席者名簿

	団体名	役 職	氏 名
個人	刈谷市 在住		篠原 敏典
市民団体	BIO de BIO	代表理事	黒田 武儀
	伊勢・三河湾流域ネットワーク	協同代表世話人	井上 祥一郎
		世話人	松井 賢子
	奥矢作森林塾	理事長	大島 光利
			片山 貴美子
			古郡 操
	豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光
	西三河野鳥の会	事務局	高橋 伸夫
矢作川「川会議」	代表	裕 さくら	
矢作川学校	事務局(矢作川研究所事務局長)	内田 良平	
学識経験者	東京大学生態水文学研究所	准教授	蔵治 光一郎
	鳥取大学地域学部	非常勤講師	丹羽 健司
	愛知工業大学工学部都市環境学科	教授	内田 臣一
	大同大学工学部都市環境デザイン学科	准教授	鷲見 哲也
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	洲崎 燈子
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	山本 敏哉
行政	豊田市産業部	森林担当専門監兼森林課長	原田 裕保
	豊田市建設部	河川課 副主幹	中川 啓二
	国土交通省 中部地方整備局 企画部	広域計画課長	安藤 元治
事務局	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	副所長	倉島 佐貴夫
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	副所長	新高 庸介
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	事業対策官	溝口 敏明
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	流水調整課長	松山 康忠
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	調査課専門職	宇野 利幸
	矢作ダム管理所	建設専門官	岡村 修
事務局 補佐	建設技術研究所	主幹	土屋 信夫
	建設技術研究所	技師	長谷川 翔生
ラバ ーネ	炭焼き、木こり		杉野 賢治
	林業		三宅 大輔
以バメ 外 ン	豊田市 在住		鈴木 啓佑
	愛知工業大学	教授	四俵 正俊
計			32名